

港湾春闘、12日のストライキは回避

第3回中央団交、次回交渉は23日

交渉序盤からストライキを配置するという異例の展開となっている港湾春闘は、9日午後から制度要求を巡る日本港運協会と全国港湾労働組合連合会（全国港湾）及び全日本港湾運輸労働組合同盟（港運同盟）による第3回中央団交が都内で行われたが、組合側が12日に構えていた24時間ストライキは延期された。次回団交は23日に行われる。

今年の港湾春闘は、初回こそ静かな幕開けとなったが、先月23日の第2回中央団交で業側は、争点の1つである制度賃金に関して「回答できない」としたことから組合が反発。その場でストを「予告」した上で、1日午後、日港協に対して正式に実力行使を通告した。

通告したストライキの内容は、12日（日曜日）始業時からの13日（月曜日）始業時までの24時間スト（就労拒否・荷役拒否）。対象は全港・全職種。スト権集約前の実力行使の予告、交渉2回目でのスト通告も異例のことだ。

こうした流れを背景に9日に行われた第3回中央港湾団交は、12日のスト回避が最大の焦点となった。業側はスト回避を要請。数度の休憩を挟んで断続的に交渉が続けられたが、

組合は最終的に12日のストライキの延期を決定した。次回交渉は23日に行われるが、組合は来週にも26日（日）始業時からの24時間ストを新たに通告する見通し。



第3回中央団交（9日、東京・港運会館）